

# 全校朝会の話（9月7日）

## 手をさしのべること～中学生の主張東京大会・中学生の作文から～

東京都の中学生が書いた作文を紹介します。

ある夏の日のことです。私はテニスの試合帰りでバスに乗っていました。そのバスはとても乗客が多く混雑していました。私は最後列の一番奥に、ラケットを入れる大きな鞄を持って座っていました。通路は乗客でふさがっているし、もちろん隣にも乗客が座っていたので、私は降車する停留所が近づくにつれ、「降りられるかな。」と不安な気持ちになりました。そして目的の停留所に着き、席を立ったのですが、やはり鞄が大きくて通路に出ることができません。するとそれに気付いた隣のおじいさんが「あ、ちょっと待っててね。よいしょっ。」と言って私の鞄を通路に出してくださいました。私はお礼を言って通路に出たのですが、人が多くてどうしてもバスのドアまでたどりつけません。すると運転手が私に気付かず、バスのドアを閉めてしまいました。私が困っていると、私の隣に立っていた男性の方が「降ります！！」と私の代わりに言ってくださったのです。運転手はそれに気付き、もう一度ドアを開けてくださいました。そして通路に立っている方々も、私と鞄が通れるように大きく道を開けてくださいり、私はドアにたどり着くことができました。私はうれしくなってバスを降りる際「ありがとうございました！！」と車内に向けてお礼の言葉を言いました。心が高ぶって言わずにはいられなかったのです。すると、一人の乗客の方が拍手をしたのに続き、何人かの乗客の方が拍手をしてくださいました。私はとてもうれしくて、バスを降りた後もずっと晴れやかな気持ちでいることができました。

私が体験したのは、バスの中での小さな出来事です。しかし、自分でも驚くほど今も心に残っています。あの時、私は人の思いやりや優しさとはこういうものなのだと感じました。困っている人にふと手をさしのべること。そうすることで、目には見えない、何かあたたかく優しいものが心に生まれるのです。それは助けてもらった人だけではなく、助けた人も、その周りにいた人さえもあたたかく優しい気持ちにしてしまう、いわば魔法のようなもので

あると私は思います。

それでもう一つ気付いたことがあります。それは、思いやりや優しさの行為は連鎖するということです。現に私はあの体験をしてから、自分も人を思いやり助けられるようになりたいと強く思うようになりました。人を思いやり助けるチャンスは日常生活の身近なところにいくらでもあります。「助ける」と言うと少し大げさな気がしますが、ほんの少し「手をさしのべる」だけでいいのです。例えば、母親が忙しそうだったら家事を手伝ったり、電車やバスでお年寄りや妊婦さんに席を譲ったりすることです。どんな小さなことでも人に親切にするとがいたら、温かい思いやりの輪はどこまでも広がっていくのではないでしょうか。

今、世間では若者のマナー違反などの行為が問題となっています。今の私たちの世代が大人になって、バスの中であのようない状況になった時、私たちは皆で困っている人を助けることができるでしょうか。必ずしもそうとは言えないと私は思います。私は今回の体験で、自分より上の世代の方々から思いやりを学びました。だから今度は私たちが、思いやりの連鎖の始まりをつくって、同世代や下の世代の人に思いやりや優しさを教えられるようになれたらいいと考えます。これは私の大きな目標でもあります。優しさが優しさを呼んで、日本全体が温かい気持ちになれるような日が来ることを祈り、自分もそれに向けて最大限の努力をしていく決意です。

### 【連鎖の意味】

つながった鎖(くさり)

つらなり つづくこと

もののつながり

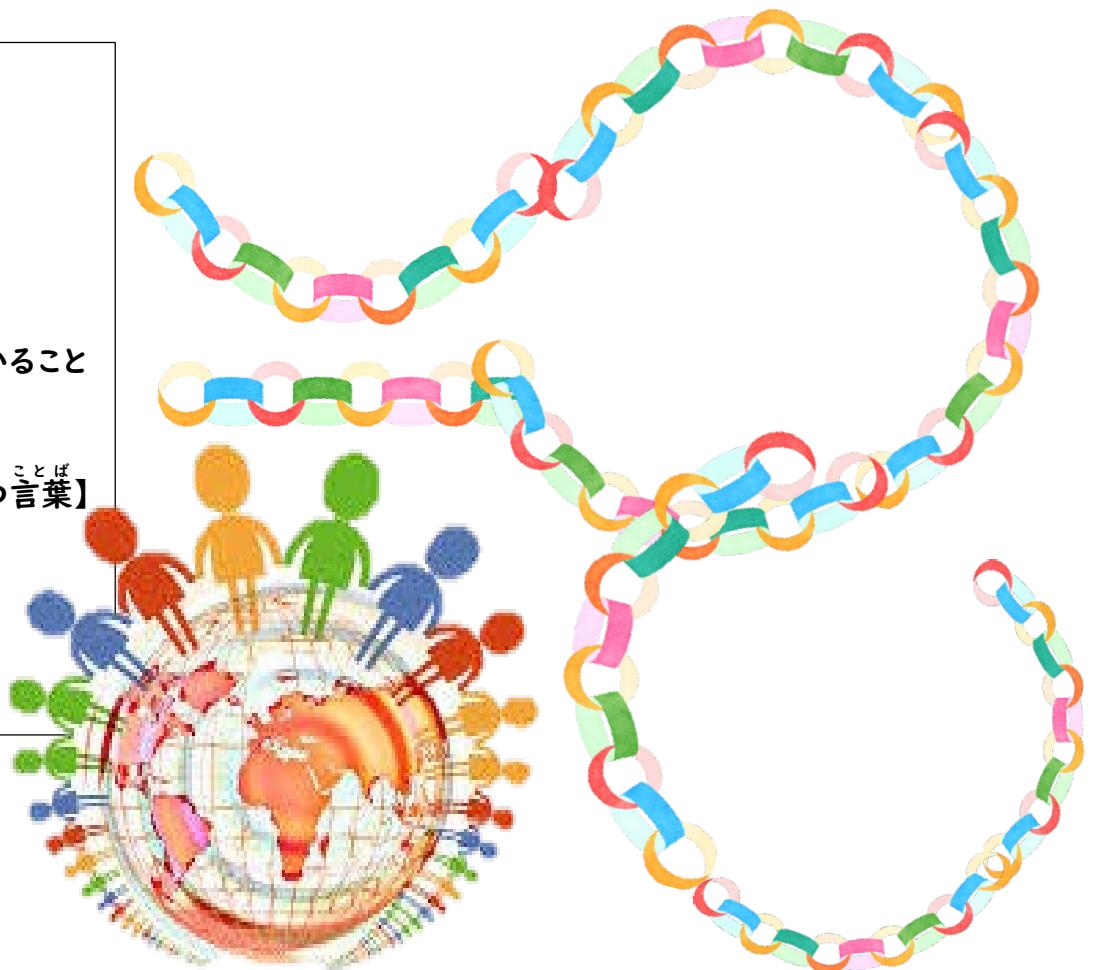
たがいにかかわりあっていること

### 【連鎖に似た意味をもつ言葉】

むす 結びつき

かんけい 関係

つながり



「思いやりや優しさは連鎖する」と作文を書いた中学生は感じています。日本人は世界でも誇れるマナーの良さや人を思う優しさをもった国民だと思います。サッカーワールドカップでごみを拾い会場をきれいにして帰る日本人、電車に挟まれた人を助けようと見ず知らずの人がたくさん集まり協力して電車を傾け困っている人を助けた日本人、東日本大震災では誰もが不安感じているのに争いをせずに救援物資配給を並んで待つ日本人のことが、世界で「すばらしい」と話題になったこともありました。きっと、そこには、「きれいにしよう」「助けよう」「正しいことを大切にしよう」と声を発した連鎖の始まりの人のがいたのでしょう。そして、<sup>あたたか</sup><sup>おもい</sup>や<sup>り</sup>の輪はどんどん広がっていったのです。

一方で、困っている人・悲しい思いをしている人がいても見て見ぬふりをしたり、正しくないことがわかっていても一緒につられてしまったり、SNSでの誹謗中傷が人を苦しめたり、新型コロナウイルスに闘う人々に悲しい言葉を発したりするといった連鎖も起きことがあります。思いやりや優しさ、そして正しいと思うことを実行する連鎖を皆さんの学級でも生み出してほしいと願っています。連鎖の始まりは、誰かがやってくれるではなく、駒沢小の子どもたち全員の役割です。

「こ・ま・ざ・わ」の「わ」を大切にしようというお話をしました。「わ」の一つが「輪」です。この「輪」という漢字には「人のつながり」という意味があります。駒沢小の子どもたちや、駒沢小の子どもたちを支えてくれる多くの人たちがいつも「あたたか」で「やさしい」心でつながっている学校でありたいと思います。そして、みなさん一人一人が、あたたかで心優しいつながりの「輪」の、最初に声をかける人、行動する人になってほしいと願っています。

こ	こころやさしい	→	ともだちを 大切にしよう
ま	学びをふかめる	→	かんがえよう つたえよう 表現しよう
ざ	最善をつくす	→	チャレンジしよう
わ	“わ”を大切にする	→	“わ” → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

わ

申  
用

「あたたか」で「やさしい」心をつなげていこう

「あたたか」で「やさしい」ことばをすすんでかけよう

「あたたか」で「やさしい」こうどう行動をすすんでしよう